

(仮称) 鹿角東部市民ウィンドファーム事業に係る計画段階環境配慮書に
対する知事意見

1 総括的事項

- (1) 事業実施想定区域（以下「想定区域」という。）及びその周辺には植生自然度の高い植生が存在しているほか、想定区域の一部が、平成 16 年 8 月に環境省が公表した「日本におけるイヌワシの生息分布」の「生息確認」の 2 次メッシュと重なっていることから、専門家の意見等を踏まえ、本事業の実施による環境影響を回避し、又は低減するよう十分配慮すること。なお、意見聴取は複数の専門家に対して行うなど、環境影響評価の客観性及び妥当性の確保に努めること。
- (2) 本事業の実施に当たっては、地域住民や地元自治体等に丁寧な説明を行い、理解を得るよう努めること。
- (3) 今後の事業計画の検討に当たっては、地域住民や地元自治体等からの情報収集に努め、影響を受けるおそれのある環境要素に係る影響の程度について、必要に応じて調査及び予測を行い、その結果を総合的に評価して事業の「位置・規模」及び「配置・構造」の決定に反映すること。
- (4) 方法書においては、事業の「位置・規模」及び「配置・構造」を可能な限り明確にし、具体的な環境の保全の配慮に係る検討内容やその結果を記載すること。
- (5) 想定区域の多くは、他の計画中の風力発電所と重なっており、その周辺には、既設及び計画中の風力発電所が存在していることから、関係する他事業者との情報共有や調整等を行い、本事業の実施による累積的な影響を回避し、又は低減するよう配慮すること。

2 個別的事項

(1) 動物

想定区域及びその周辺は、イヌワシ等の希少猛禽類が生息する可能性があることから、事業の「位置・規模」及び「配置・構造」の決定に当たっては、今後の現地調査の結果や専門家の助言、最新の知見・事例等を踏まえ、本事業の実施による鳥類の移動経路の遮断・阻害やバードストライクの発生による影響を回避し、又は低減するよう配慮すること。

(2) 植物・生態系

想定区域には、植生自然度の高い植生であるオオヨモギーオオイタドリ群団が存在する可能性があることから、風力発電機や工事用道路等の配置計画の検討に当たっては、既存の造成地や管理用道路を極力活用する等により、本事業の実施による植物及び生態系への影響を回避し、又は低減するよう配慮すること。